

株式会社日研工業所

常に新しいやり方を求めることで
塗装の可能性を大きく広げます

代表取締役社長 真田 武彦さん



祖父は薬品会社、親父が塗装業を始めた。親父は絵描きだったので仕上げが美しく、お客さんから高い評価をもらってましたわ。

うちには、硫黄にも剥げない塗装、たいたても剥げない塗装といった、今までできなかった新しい塗装を求めるお客さんが多く来られます。大量生産の要望も多く、靴の紐を通す「ハトメ」の塗装は、大手シューズメーカーの製品で使用されています。ミュンヘンオリンピックのバレーのシューズのハトメは、うちがやったものです。女性の下着用の金具でも、144万～200万個の塗装を請け負うなど、大きな仕事をやってきました。昭和50年ごろのジーンズのブームの時には、糊抜き、ストーンウォッシュ、脱色などの工程で使用する付属パーツの表面処理を行

ました。毎月200万着のオーバーオールが売れるような時代で、仕事も順調でした。

うちの成長は、いいお客さんに恵まれ、お客さんが求めるものをどうすれば実現できるかを追求してきたことです。どこにもない新しいことを、方法を駆使して可能にするので、そこが他社にはない技術です。

実は、中学の先生から教えてもらった言葉が頭から離れないんです。「新しい方程式を創るには、レールの上を走ってはいけません」。非常識だと思っていたところに新しい方程式が見つかるんです。今、65歳ですが、仕事をするのが日々、勉強。ものづくりをやり続けると何が正しいか、何が間違っているか見えてくるもの。利益はついてくるもんやと思ってます。



誰かから教わった言葉が頭から離れないんです。

世の中、長所と短所は表裏一体。長所をいかに、良いものにするには欠点をどうすればいいか考えればいいんです。



あらゆる素材に塗装が可能 多業界から依頼が殺到

「21世紀の塗膜をリードする」として、金属や樹脂などの素材に塗装やコーティングを行う日研工業所。塗装は、水蒸気や薬剤による金属の錆を防ぐ防食性、美観を維持するための装飾性は知られているが、同社は特殊な材質や特殊な機能を付加する塗装ができる。

同社は、塗料メーカーからはタブーだと言われた素材と素材のミックスで、新しい塗装を可能にしてきた。また、屋外での使用で変形や変色、劣化などを起こしにくくする「耐候性」、化学薬品との接触で変形を防ぐ「耐薬品性」といったものも。素材自体のこだわりを捨て、たとえば、普通なら鉄を使用するところにチタンやマグネシウムなどを使用し、塗装して仕上げることもある。

塗装には素材、形状、異質なもの複合。この3つが大事だと話す。常識にとらわれず新しいことに挑戦することでクライアントの要望を実現してきた。たとえば、金属がまるで陶器にみえるような塗装、ワイシャツ用の貝殻ボタンに加飾する塗装など。材質を問わず、様々なデザインや模様、機能、性質を付加することで業務を拡大。アパレル、スポーツメーカー、電気メーカー、建築など取引業界も幅広い。並行して、環境への配慮も徹底している。高効率での作業、資源の有効利用、廃棄物の処理。どんな要望にも、どんな素材にも無公害で塗装を実現できるというのが、今の時代にマッチしている。

株式会社日研工業所

<http://www.nikken-kogyosho.com/>
〒554-0006 大阪市生野区中川東2-3-20
TEL06-6754-3883 FAX06-6752-5772

事業内容/金属(鉄、銅、アルミ、ステンレス、チタン、真鍮、マグネシウム亜鉛ダイカスト、アルミダイカストなど)、樹脂(ABS、PC、PP、PS、アクリル、ナイロン、ポリアセタール、フェライトなど)など、あらゆる材質へのハイクラス焼付塗装、特殊コーティング。



塗装は化粧と一緒だ。

塗料メーカーからはタブーだと言われた素材と素材のミックスで、新しい塗装を可能にしてきた。

仕事は価値創造の場。モノづくりの現場は価値創造の場。

世の中や人を幸せにするために自分ができることから役立ちを考えます

我が社の自慢

日本拳法の道場がある!

今までは塗装は錆びない、キレイに見せたいというのを通り。ここからは、機能性が求められる。絶えず、通電が塗装で実現できる。

会社の隣には、「真誠塾」という日本拳法を研鑽できる道場がある。もともと、社長の父が、地域や地元の方の健康のためにと開いたもの。現在は、社長の長男が教える。「礼に始まり、礼に終わる」武道の精神を子どもたちに教えている。